

# 週刊 タバコの正体

タバコに含まれる有害物質は時間をかけて少しずつ喫煙者の身体にダメージを与え続けます。その影響で自覚症状がないままに味覚や嗅覚が損なわれたり、血管や肺をはじめとする様々な臓器に異常が発生します。そしてじつは、タバコは眼の病気を発症することもあるのです。

この病気は「おうはんへんせいしょう黄斑変性症」と呼ばれ、右下のように視野の中心がゆがんで見えたり、黒く欠けたりする症状がでます。私たちは眼の網膜に届いた光をもとに脳で画像に変換されたものを「見ている」のですが、光が集まってくる網膜の中心に黄斑と呼ばれる1.5～2mm程度の部分に異常があると、このような症状がでるのです。

この病気の原因は、黄斑にある毛細血管が詰まって血液が流れなくなる事がきっかけとなるそうです。

50歳以上になると発症する事が多く、喫煙歴のある人が特になりやすい病気だと言われています。

タバコを吸い続けると、こんな眼の病気になる事を知っている人は少ないでしょう。

自分の将来を考えたら、タバコは必要ないですね。

産業デザイン科  
奥田 恭久

